

続・ふるさとこぼれ話

祖母井東宝物語③

祖母井東宝は「東宝」を名乗る映画館だったが、アクション物の日活、母物の大映、メロドラマ・人情劇の松竹、時代劇・任侠物の東映、さらには外国映画と、さまざまな作品を扱っていた。

祖母井大通り沿いの細谷花屋さん北側の路地を西に向かい、映画館に至る入口に祖母井東宝の門柱が立ち、上映中の映画の内容を知らせる看板が掛けられていた。夕方になると、この門柱に取り付けられたスピーカーから「そろそろ今日の映画が始まるぞー」と町民に知らせる映画音楽が流された。この音楽が聞こえると、界隈の人々はそわそわし、早く夕ご飯を片付けて映画に行こうとせわしなくなる。夜の7時ごろからお楽しみ2本立て映画が始まるのである。

第60回

映画館で働いていた人たちを紹介していこう。昭和20〜30年代、映画は2・3本立てが一般的であった。映画フィルムの賃料を少しでも節約するため、芳賀郡市内のいくつかの映画館がフィルムを共同で借り、映画館の間で回して上映していた。各映画館にはフィルムの運び屋さんがいて、映画フィルムの入ったリール缶をオートバイに載せ、映画館と映画館の間を何度も往復していた。

祖母井東宝の運び屋さんは、いねや菓子店の稲延静一さんであった。例えば映画1本がリール缶8本だとすると、映画の半分が終わると、終わったリール缶4本をオートバイに載せ、益子町、茂木町、真岡市の映画館に運んだり、持ち帰ったりしたそう。稲延さんは、250ccのオートバイにリール缶を載せ、ダツダツと、でこぼこの砂利道を走った。その姿は結構、格好がよかったという。



▲稲延静一さん

しまたがしの芳賀の自然 12



アカタテハ チョウ目タテハチョウ科
 撮影場所＝町内の梨畑
 写真提供＝芳賀町自然に親しむ会
 分布＝北海道南部から九州
 生息地＝山地から平地の林や野原
 時期＝5～10月（4～5回/年発生）
 食性＝イラクサ科植物（幼虫）
 特性＝成虫で越冬（タテハチョウの仲間）し各種の花で吸蜜したり、落果や樹液を吸う。幼虫は葉を丸める。
 大きさ＝開張（羽を広げた最大値）60mm

編集後記

□タウンレポートコーナーでもご紹介している下延生地域づくり委員会の「そば打ち体験」に、地域づくり委員会担当職員兼取材で参加しました。そば打ちなど、これまでは見学だけで終わっていましたが、今回は初挑戦。見事生地には穴が：開きました。

□最後は、講師のそば粉ひきたて、打ちたて、ゆでたてのおいしいそばを味わえ、楽しい時間を過ごしました。（Y）



▲『残照』
ロマンつり橋（ロマンの湯西側）

■編集 芳賀町広報広聴委員会
 ☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
 ■発行 芳賀町企画課
 栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
 ■芳賀町ホームページアドレス
<http://www.town.haga.tochigi.jp>
 ④芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



*1月号で紹介したコムラサキの写真がリュウキュウアサギマダラになっていました。お詫びいたします。